

1. 巻頭言

所長 湯本 貴和

みなさまに霊長類研究所 54 年目の年報をお届けいたします。

霊長類研究所は「ヒトとは何か」あるいは「ヒトはどこから来て、どこに向かうのか」という、わたしたち人類にとって不滅の課題を総合的に研究する国内唯一の霊長類の研究所として、「くらし・からだ・こころ・ゲノム」のさまざまな専門領域からアプローチする独自の体制で、研究教育活動を展開してきました。平成 22 年度には共同利用・共同研究拠点「霊長類総合研究拠点」として認められ、国内外の先端的な共同研究を推進してまいりました。

当研究所の所員は、これまで日本をはじめとしたアジア・アフリカ・南米の野生霊長類の生態・行動の調査、現生霊長類および化石霊長類の形態や各器官の機能の高度な解析、飼育下あるいは野生霊長類の比較認知科学的な実験、遺伝子導入や脳機能イメージングなどの先端技術を駆使した神経細胞や神経回路の解析、細胞・ゲノムレベルでの霊長類の感覚系・脳神経系などの進化や多様性の解析など、さまざまな分野でフィールドや実験室、さらにその両者を組み合わせた共同研究とそれに関連した教育活動、あるいは研究教育の事務的・技術的な支援をおこなってきました。とくに所内に 7 種約 1160 個体のヒト以外の霊長類を飼育して、獣医学的・集団遺伝学的・ウイルス学的な研究をおこないつつ、共同利用・共同研究拠点における重要な研究リソースとして、大学院生を含む国内外の研究者が利用できるように努めてまいりました。

しかしながら、霊長類研究所における競争的資金の不正経理事案等を受けて、昨年来、京都大学に設置された専門委員会によって当研究所の将来構想について検討していただいた結果、2021 年 10 月 26 日（火）の本学教育研究評議会において改編の方向性が示されました。その結果、霊長類研究所は半世紀の活動に区切りをつけるとともに、ヒト行動進化の研究に取り組む新しいセンターに改編することになりました。全学的に検討した結果として、このたび研究所の再編という結論に至ったことを謹んで受け止めるとともに、全国の研究機関や研究者コミュニティへの貢献が途切れることのないよう、新たに設置される組織にスムーズにバトンを引き継いでいく所存です。

考えてみれば、これまで「霊長類研究所」という看板の下で、今西錦司先生以来という京都大学の霊長類学の伝統を当研究所がいわば独占してまいりました。この独占体制が再編されることをむしろ好機ととらえ、まさに全学的に霊長類学の教育研究体制を再構築してシン・霊長類学を創造していくべきではないかと考えております。関係者の皆さま方のご理解と今後のご協力をこちらからお願いする次第です。